

特別活動／2月12日(土) 「椎茸菌打ち作業」

伊藤 晶子

昭和30年代以前の里山林は、20～30年毎に伐採され萌芽更新で常に若返りを繰り返していた林ですが、昭和30年代のエネルギー革命以降、林は伐採されずに今日に至っています。

オアシスの森のコナラやアベマキは、今や10数メートルにそびえ立ち、過熟林になっています。これらの木々が寿命を迎える頃に森林の崩壊となる可能性もあります。

それで、1月の定例会で実験的に萌芽更新区域を作りました。その折にコナラ材が出ました。コナラ材は、椎茸のホダ木に適しています。



▲ドリルで空けた穴に駒菌を打ち込む

コナラ材を道具小屋まで運び、青空の下電気ドリルを唸らせて駒菌を打ち込む穴をあけました。タテ列15cm間隔、列間は3cmくらいになるよう小気味よく木くずを飛ばして穴をあけ、駒菌を次々と打ち込んでいきました。午前中



に500個打ち込みました。菌を打ち込んだ木は、棒積みにしてシートを掛け仮伏せにしてあります。1～2ヶ月後、組み替えて木伏せにします。

細い原木では運が良ければ来年の春、他の木は再来年の春に椎茸を出してくれるでしょう。再来年の萌木まつりでは椎茸の竹炭焼きを賞味できるかも……。

定例活動／2月26日(土) 「アカマツ林再生とプラスα」

大館 学

2月の定例活動の定番になりましたアカマツ林再生プロジェクトも今年で4年目を迎え、オアシスの森の西端、散策エリアも徐々にアカマツの育つ環境に変わりつつあります。今日は初めての人もあったためか10時のスタート時には17名の参加者が集いの広場に集まりました。のこぎり、熊手を用意して出発。良い天候に恵まれて、散策エリア西の覗きからは白く雪をいただいた伊吹山や藤原岳がくっきりと望め皆うっとり。



▲アカマツ林の光環境を阻害する灌木を取り除く

作業はアカマツの実生苗にも注意しながらの林床にたまった落ち葉などのゴウカきや、小さなアカマツの光環境改善のための灌木の剪定など体力勝負の作業に上着を脱ぎだす人もちらほら。もちろん長年放置されていたエリアや

昨年まで手入れをした区域にも多くの枯れ松があり、3台のチェーンソーが大活躍。柴材や枯れ松は森の片隅に集め積み上げ景観にも配慮して作業は進められ、2時間の作業が終わった頃にはゴウカきを終えきれいになった森に冬の暖かな光が差し込み、皆自分たちの作業に満足のできばえとなりました。さて、本日は午後の部として、しいたけの駒菌打ちと3月の萌木祭りに備えた化粧炭づくりや竹のお猪口試作などいろいろ予定があり、アカマツは午前のみ。



▲空き缶を使った化粧炭づくり

小屋のウッドデッキに場所を移しお弁当。中島さん差し入れのビールを飲みながら、七輪に竹炭を点火。火の用心にはもちろん十分配慮して、本日小屋に配備したばかりの強化液入りの消



▲陽光がたっぷり降り注ぐ作業後のアカマツ林

火器を準備。空き缶に入れた大きな松ぼっくりを小一時間ほど火にかけるだけで見事な「化粧炭」の出来上がり。続いて細めのハチクで作ったお猪口を燻してみる。ハチクの甘い香りがあたりに漂い、10分ほどで緑鮮やかなお猪口の出来上がり。萌木祭りが楽しみです。シイタケの駒菌も200個打ち、前回とあわせ700個となりました。



▲12日の特別活動に引き続きシイタケの駒菌打ち

こうして楽しんでいると時間のたつのは早いもの。日が陰ってきて少し寒くなり解散となりました。